

## トップインタビュー

# 社員の幸せとSDGsと ワタミモデルの完成を目指して

SDGs日本一を目指して、さまざまな取り組みを進めているワタミグループ。来春には「陸前高田・ワタミオーガニックランド」の開業を控え、ワタミモデルの実現も間近になった今の思い、今後への思いなどを、代表取締役会長 兼 グループCEO 渡邊美樹と、執行役員SDGs推進本部長 百瀬則子の対談で紹介します。

## ワタミグループのミッションのすべてがSDGsと一致する

**百瀬** ワタミグループがSDGs日本一になると決めて2年が経過しますが、今後のウイズコロナ時代にはこれまでとは違う価値観が生まれると考えられます。

**渡邊** 新型コロナウイルスの感染拡大は、これまでの我々の価値観を変えるできごとです。多くの物を所有することによる豊かさより、精神的な豊かさが求められるようになり、なんでも大量生産するのではなく、リサイクルやリユースが拡大する。それは、SDGsの考え方への理解を深めるきっかけになり、我々がやっていること、やろうとしていることへの理解も深まるでしょう。だからといって、我々が目指すこと、やるべきことに何も変わりはありません。ただ、より強力に、より迅速に進めていく必要はあるでしょう。

**百瀬** おっしゃるとおりですね。誰もが目の前にある危機を何とか乗り越えようとして、未来に続く目標を見失っているようです。まさに今、SDGsが描く未来の世代のことも考えなくてはいけない時です。

**渡邊** 我々がなぜSDGsに取り組むのか、その目的を明確にする必要があります。それは、ワタミグループが何のために存在するかという、会社の存在意義にも関わってくることです。人間は、お金や地位、名誉を得るために生まれてきたわけではなく、大きな夢を描き、その夢の実現に向けて行動する、そのプロセスの中で“ありがとう”を集めながら成長していく。つまり、「人間は成長するために生まれてきた」という私自身の価値観に基づいたものでもあるのですが、そうであるならば、生まれてきたすべての人がちゃんと成長できる環境を次世代に残していくことが必要なのです。それがSDGsの考え方であり、ワタミグループのミッションでもあるといえます。

**百瀬** SDGsでは「誰一人取り残さない」ことを誓っていますが、私

たちもすべての子どもが大きな夢を描き、それに向かって生きていけるような環境をつくらなければいけないということですね。

また、ワタミは将来の子どもたちのためにも豊かな自然を守り、美しい地球を残していこうという取り組みも進めています。それは、SDGsが掲げている持続可能性そのものですね。

**渡邊** 持続可能な暮らしの実現という、その考えは創業当時からずっと私の中にあり、向き合ってきたもので、SDGsが提唱されたことで、まさに我々がやろうとしていたことはこれなんだと、認識を新たにしました。SDGsの目標に、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」とあります。子どもたちが十分な食事がとれなければ十分な成長が望めないからです。教育の機会を提供することによって成長を促すことができます。陸のもの、海のことを大切にすることで、生きる環境を整えることができます。すべては人間が何のために生まれてきたのかという価値観に基づいた活動です。

**百瀬** ワタミグループの考え方に時代が追いついてきたと。

**渡邊** そうです。ですから、非常にスムーズに取り組みが進んでいると思いますし、今後も、ワタミグループではSDGsを軸に、事業をとおして社会課題を解決し、SDGsを形にしていくことには変わりはありません。そして、日本一、世界一のSDGs企業を目指します。



代表取締役会長  
兼 グループCEO  
渡邊 美樹

SDGs 推進本部長  
百瀬 則子

## 命と向き合う「ワタミオーガニックランド」

**百瀬** 「SDGsを形にしていく」というお話が出ましたが、来春、開業予定の「陸前高田・ワタミオーガニックランド」がそのひとつですね。

**渡邊** そう、SDGsを形にするために今、一番やりたいことがワタミモデルをつくりあげることです。ワタミモデルというのは再生可能エネルギーを使った循環型の6次産業モデルで、22世紀に求められる事業モデルだと考えています。再生可能エネルギーの活用として「RE100(詳細はP14)」の取り組み、循環型では食品や容器包装リサイクル(詳細はP15~P20)への取り組みを進めてきました。そして、1次産業の有機農業があり、2次、3次へとつながっていく。そういう産業モデルをコンパクトな形にして実現しようとしているのがオーガニックランドです。現実的な問題として、現在の我々の事業のすべてを再生可能エネルギーで賄うこと、そして循環させることも難しい。しかし、オーガニックランドの中ではすべて再生可能エネルギーで賄い、すべて循環しながら1次産業として有機農場があり、2次産業として食品加工工場があり、3次産業として農のテーマパークがあり、多くの人にオーガニックランドを経験していただく。そして、そこでは障がいのある方にも働いていただく。それが我々独自の6次産業モデルです。

**百瀬** ワタミグループの目指す持続可能な世界そのものですね。ところでなぜ、陸前高田市を選んだのですか。

**渡邊** ワタミグループのミッションのベースにあるのは命です。そして、オーガニックランドのテーマも命。陸前高田市は、2011年3月の東日本大震災で大きな被害を受けた地域で、あの日、あの場所で多くの人々が津波によって命を奪われました。あの場所こそ、



命の尊さを考えるにふさわしい場所だと思ったのです。また、SDGs 11に「住み続けられるまちづくりを」という目標がありますが、それは過疎化が進んで行く日本の地方にとって大きな課題です。陸前高田市においていかに人を集め、地方が活性化していくために何をなすべきかのモデルにしたいという考えもあります。

**百瀬** 有機栽培の作物の実りがあり、家畜が飼育され、商品として販売される。私たちの命をつなぐために必要なものの存在を知ることができる、命の尊さと向き合うにふさわしい場所ですね。全国の子どもたちにも来てほしいとお考えだそうです。

**渡邊** 修学旅行のメッカにしたいですね。“22世紀の地球がこうなったらいい”という提案をする場所にしたいと思っています。そして、以前あった市民ホールが津波で流されてしまったので、市民だけではなく全国から人が集まれる野外音楽堂を建てます。オーガニックランドのテーマに共感し、隈研吾さんが設計を引き受けてくださって、約5万人収容の日本最大の野外音楽堂になります。

## 和牛の海外進出と新展開が期待される宅食

**百瀬** ワタミという外食のイメージを強くお持ちの方が多くと思いますが、最近では宅食の認知も広がってきています。今後どのようなところに力を入れていこうとお考えですか。

**渡邊** 外食は祖業なので、そこはきちんと継続していきます。同時に、環境問題、フードロスなどの食の問題、エネルギー問題に向き合っていきます。クールジャパン最強の武器といえる和牛を世界に広めていくと同時に、各地で小規模でもいいので有機農場をつくってそこで採れた野菜を提供したり、日本で採れた野菜の加工品を提供したりすることで、ワタミグループの思いも広がっていきます。

**百瀬** ワタミグループの進める持続可能な農業は、農業や化学肥料を使わない有機栽培なので、SDGs15「陸の豊かさを守ろう」、3「すべての人に健康と福祉を」にも繋がります。さらに12「つくる責任つかう責任」まで。こうしてお話を聞いているとすべての活動が繋がっているということがよくわかります。また、高齢者の健康を守る食事として展開してきた宅食ですが、3月のコロナ禍での臨時休校支援では子どもたちにも食べてもらうことができました。

**渡邊** そうですね。50万食を無償で届けることができ、そこから新しい利用の仕方が広がりました。栄養バランスが良く安全・安心なお弁当ということが認められ、豊島区の学童に通う子どもたちに提供していくことが決まりました。これからはたくさん子どもたちにも食べてもらえる弁当事業にしていきたいですね。

## 3つの会議で強化する100年企業の実現

**百瀬** 社内での取り組みについても少し伺いたいのですが、昨年の秋から新たな会議が3つ、定期的開催されるようになりました。それぞれどのような目的を持って始められたのですか。

**渡邊** 国会議員の職に就き、ワタミグループを少し離れたところか



SDGs 会議の様子

ら見ていたときに、強化すべきと感じたことがいくつかありました。ひとつは社員一人ひとりの幸せ。ワタミというのは、社員一人ひとりが夢を描ける会社であつたはずなのに、それができにくくなっている。これから自分がどんな人生を生きて、どんな幸せを形作っていくか、しっかりと思い描くことができる環境をつくるため「社員の幸せ実現会議」を社員に夢を与えるようにしたいと思って始めました。二つめの「SDGs会議」は、SDGs日本一を目指し、ワタミモデルでSDGs実現に向かっているものの、まだまだ全員が本気になりきれていない。もっと社員一人ひとりを巻き込まなければいけないと思って始めました。誰かの指示を受けるのではなく、一人ひとりももっと積極的に、自発的に行動するようになるためのきっかけになればいいと思っています。

そして、こうした活動をしていることをしっかり外部に伝え、思いを共有してくれる仲間を増やしたい。そのためにつくったのが、三つめの「ブランド向上会議」です。SDGsを掲げるだけではなく、実践する。今日の一步を進めるための会議です。

**百瀬** 3つの会議をとおして、自分たちのやっていることがSDGsそのものであるということを常に確認しながら行動し、それを広めていくということですね。

**渡邊** そうです。持続可能な社会づくりにまい進すると同時に、100年企業の実現に向けて実態をつくる。それこそが、いま、我々が最もやるべきことなのです。